

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針	

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p style="text-align: center;">目次</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1. 概要 .....</li><li>2. 設計用床応答及び設計用最大応答加速度曲線作成に係る基本方針及び作成方法 .....</li><li>2.1 基本方針 .....</li><li>2.1.1 設計用床応答曲線 .....</li><li>2.1.2 設計用最大応答加速度 .....</li><li>2.2 作成方法 .....</li><li>2.2.1 応答スペクトルの作成方法 .....</li><li>2.2.2 設計用床応答曲線の作成方法 .....</li><li>2.2.3 設計用床応答曲線の作成位置 .....</li><li>2.2.4 設計用床応答曲線の適用方法 .....</li><li>3. 地震応答解析モデル .....</li><li>4. 設計用最大応答加速度及び設計用床応答曲線 .....</li><li>4.1 弾性設計用地震動 Sd .....</li><li>4.2 基準地震動 Ss .....</li></ul>	<p>余震荷重を算定するための地震動を本図書に追加予定。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>1. 概要</p> <p>本資料は、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」のうち「4. 設計用地震力」に基づき、機器・配管系の動的解析に用いる設計用床応答曲線の作成方針及びその方針に基づき作成した設計用床応答曲線に関して説明するものである。</p> <p>また、機器・配管系の静的解析に用いる設計用最大応答加速度及び静的震度についても併せて説明する。</p> <p>2. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度作成に係る基本方針及び作成方法</p> <p>2.1 基本方針</p> <p>2.1.1 設計用床応答曲線</p> <p>(1) 添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」に基づき策定した各原子炉施設の解析モデルに対して、入力地震動を用いた時刻歴応答解析を行い、各質点位置における加速度応答時刻歴を求める。入力地震動は、添付書類「VI-2-1-2 基準地震動 <math>S_s</math> 及び弾性設計用地震動 <math>S_d</math> の策定概要」に基づくものとして、表2-1及び表2-2に示す。</p> <p>(2) (1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴を入力として、減衰付1自由度系の応答スペクトルを必要な減衰定数の値に対して求める。</p> <p>(3) (2)で求めた応答スペクトルに対し、各原子炉施設の固有周期のシフトを考慮し、周期方向に±10%の拡幅を行う。本資料においては、これを「床応答曲線」という。</p> <p>(4) (3)で求めた床応答曲線に対し、材料物性の不確かさ等を考慮して作成したものを設計用床応答曲線とする。</p>	<p>表現の相違</p> <p>表現の相違</p> <p>設置(変更)許可における設計方針の差異による(基礎地盤の傾斜が1/2000を下回るため、考慮不要。以下同様)。</p> <p>設置(変更)許可における設計方針の差異による(女川2号では設計</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																		
		<p>2.1.2 設計用最大応答加速度</p> <p>2.1.1(1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴の最大値（最大応答加速度）に対し、材料物性の不確かさを考慮して作成したものを、設計用最大応答加速度とする。</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 入力地震動</p> <table border="1" data-bbox="1330 619 1935 1463"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">基準地震動</th> <th colspan="2">最大加速度 (cm/s<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ss-D1</td> <td>プレート間地震の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動</td> <td>640</td> <td>430</td> </tr> <tr> <td>Ss-D2</td> <td>海洋プレート内地震 (SMGA マントル内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動</td> <td>1,000</td> <td>600</td> </tr> <tr> <td>Ss-D3</td> <td>海洋プレート内地震 (SMGA 地殻内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動</td> <td>800</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>Ss-F1</td> <td>プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (応力降下量 (短周期レベル) の不確かさ)</td> <td>717</td> <td>393</td> </tr> <tr> <td>Ss-F2</td> <td>プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA 位置と応力降下量 (短周期レベル) の不確かさの重畳)</td> <td>722</td> <td>396</td> </tr> <tr> <td>Ss-F3</td> <td>海洋プレート内地震 (SMGA マントル内) の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA マントル内集約)</td> <td>835</td> <td>443</td> </tr> <tr> <td>Ss-N1</td> <td>2004年北海道留萌支庁南部地震 (K-NET 港町) の検討結果に保守性を考慮した地震動</td> <td>620</td> <td>320</td> </tr> </tbody> </table>	基準地震動		最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )		水平方向	鉛直方向	Ss-D1	プレート間地震の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	640	430	Ss-D2	海洋プレート内地震 (SMGA マントル内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	1,000	600	Ss-D3	海洋プレート内地震 (SMGA 地殻内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	800	500	Ss-F1	プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (応力降下量 (短周期レベル) の不確かさ)	717	393	Ss-F2	プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA 位置と応力降下量 (短周期レベル) の不確かさの重畳)	722	396	Ss-F3	海洋プレート内地震 (SMGA マントル内) の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA マントル内集約)	835	443	Ss-N1	2004年北海道留萌支庁南部地震 (K-NET 港町) の検討結果に保守性を考慮した地震動	620	320	<p>用床応答曲線は1種類のみ。</p> <p>設置(変更)許可における設計方針の差異による(女川2号では設計用最大応答加速度は1種類のみ)。</p>
基準地震動		最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )																																			
		水平方向	鉛直方向																																		
Ss-D1	プレート間地震の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	640	430																																		
Ss-D2	海洋プレート内地震 (SMGA マントル内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	1,000	600																																		
Ss-D3	海洋プレート内地震 (SMGA 地殻内) の応答スペクトルに基づく手法による基準地震動	800	500																																		
Ss-F1	プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (応力降下量 (短周期レベル) の不確かさ)	717	393																																		
Ss-F2	プレート間地震の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA 位置と応力降下量 (短周期レベル) の不確かさの重畳)	722	396																																		
Ss-F3	海洋プレート内地震 (SMGA マントル内) の断層モデルを用いた手法による基準地震動 (SMGA マントル内集約)	835	443																																		
Ss-N1	2004年北海道留萌支庁南部地震 (K-NET 港町) の検討結果に保守性を考慮した地震動	620	320																																		

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）  
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																										
		<p>表 2-2 入力地震動（弾性設計用地震動 S d）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">弾性設計用地震動</th> <th colspan="2">最大加速度（cm/s<sup>2</sup>）</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S d - D 1</td> <td>371</td> <td>249</td> </tr> <tr> <td>S d - D 2</td> <td>580</td> <td>348</td> </tr> <tr> <td>S d - D 3</td> <td>464</td> <td>290</td> </tr> <tr> <td>S d - F 1</td> <td>359</td> <td>197</td> </tr> <tr> <td>S d - F 2</td> <td>361</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>S d - F 3</td> <td>418</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td>S d - N 1</td> <td>310</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table>	弾性設計用地震動	最大加速度（cm/s <sup>2</sup> ）		水平方向	鉛直方向	S d - D 1	371	249	S d - D 2	580	348	S d - D 3	464	290	S d - F 1	359	197	S d - F 2	361	198	S d - F 3	418	222	S d - N 1	310	160	
		弾性設計用地震動		最大加速度（cm/s <sup>2</sup> ）																									
水平方向	鉛直方向																												
S d - D 1	371	249																											
S d - D 2	580	348																											
S d - D 3	464	290																											
S d - F 1	359	197																											
S d - F 2	361	198																											
S d - F 3	418	222																											
S d - N 1	310	160																											
<p>2.2 作成方法            2.2.1 応答スペクトルの作成方法            (1)解析方法            2.1.1(1)で述べた方針で時刻歴応答解析を行い，各モデルの各質点における加速度応答時刻歴を求める。この加速度応答時刻歴を入力波として応答スペクトルを作成する。すなわち，入力波の絶対加速度を<math>\ddot{Y}_i</math>とおけば，質点系の振動方程式は，  <math display="block">\ddot{Z}_i + 2 \cdot h \cdot \omega \cdot \dot{Z}_i + \omega^2 \cdot Z_i = -\ddot{Y}_i \quad \dots\dots\dots (2. 1)</math>            ただし，  <math>\omega</math>：質点系の固有円振動数  <math>Z_i</math>：i 質点上の質点の相対変位  <math>h</math>：減衰定数</p>																													

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>地震の間の<math>\ddot{Y}_i + \ddot{Z}_i</math>の最大値を<math>\omega</math>及び<math>h</math>をパラメータとして求め、応答スペクトルを作成する（図2-1参照）。応答スペクトルの作成には、「FRS Calculation System」、<b>「VIANA」</b>、「CHERRY」、「FACS」及び「FRS Enveloping for BWR」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p>(2) 減衰定数 応答スペクトルは、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」の機器・配管系の減衰定数を用いて作成する。</p> <p>(3) 数値計算用諸元 固有周期作成幅 0.05～1.0s 固有周期計算間隔 0.05 ～ 0.1s <math>\Delta\omega = 4.0\text{rad/s}</math> 0.1 ～ 0.2s <math>\Delta\omega = 1.5\text{rad/s}</math> 0.2 ～ 0.39s <math>\Delta\omega = 0.5\text{rad/s}</math> 0.39 ～ 0.94s <math>\Delta\omega = 1.0\text{rad/s}</math> 0.94 ～ 1.0s <math>\Delta\omega = 0.38\text{rad/s}</math></p> <p>2.2.2 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成方法 (1) 設計用床応答曲線 設計用床応答曲線は、基準地震動S s又は弾性設計用地震動S dによる時刻歴応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトルを固有周期の多少のずれにより、応答に大幅な変化が生じないよう周期軸方向に±10%の拡幅を行ったものと材料物性の不確かさ等を考慮して作成した応答スペクトルを包絡させたものである（図2-1）。ただし、材料物性の不確かさ等を考慮して作成する応答スペクトルについては、±10%の拡幅は考慮しない。</p>	<p>設計の差異による（使用する解析コードの差異）。</p> <p>プラント固有条件の差異による（建屋等の卓越周期に応じた設定）。</p> <p>表現の相違</p> <p>設置（変更）許可における設計方針の差異による（女川2号では設計用床応答曲線は1種類</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(2) 設計用最大応答加速度</p> <p>設計用最大応答加速度は、基準地震動 <math>S_s</math> 又は弾性設計用地震動 <math>S_d</math> による時刻歴応答解析から得られる応答波の最大値（最大応答加速度）と材料物性の不確かさを考慮した時刻歴応答解析の応答波の最大値を包絡させたものである。</p> <p>図 2-1 解析フロー図</p>	<p>のみ)。</p> <p>設置(変更)許可における設計方針の差異による(女川2号では設計用最大応答加速度は1種類のみ)。</p> <p>表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

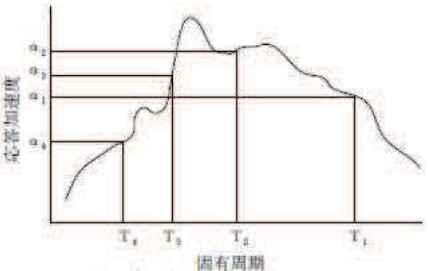
先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>2.2.3 設計用床応答曲線の作成位置 図3-1（1）～図3-2（5）の解析モデルについて設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度を作成する。</p> <p>2.2.4 設計用床応答曲線の適用方法 （1）概要 機器・配管系の動的地震力を求める場合は、それぞれの据付け位置における設計用床応答曲線又は設計用最大応答加速度を使用して設計震度を定める。この場合、以下の運用方法に従う。</p> <p>（2）運用方法</p>	<p>設置（変更）許可における設計方針の差異による（女川2号では設計用床応答曲線は1種類のみ）。</p> <p>設置（変更）許可における設計方針の差異による（女川2号では設計用床応答曲線は1種類のみ）。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(a) 振動方向に合わせ、水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用床応答曲線を使用する。</p> <p>(b) 設計用床応答曲線は、配管系が設置されている位置を包絡する設計用床応答曲線を適用する。また、異なる建物・構築物を渡る配管系については、配管系が設置されている位置を包絡する設計用床応答曲線を適用する。ただし、設計用床応答曲線の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。</p> <p>(c) 設計用床応答曲線を用いて動的解析を行う場合には以下に示す方法によりモード合成を行うものとする。</p>  <p> <math>T_s</math> : S 次の固有周期  <math>\alpha_s</math> : <math>T_s</math> に対する震度  <math>\phi_{si}</math> : S 次の i 質点の固有モード  <math>\beta_s</math> : S 次の刺激係数  <math>A_i</math> : i 質点の設計震度         </p> $A_i = \sqrt{\sum_{s=1}^n (\beta_s \cdot \phi_{si} \cdot \alpha_s)^2}$	<p>表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>b. 設計用最大応答加速度</p> <p>(a) 振動方向に合わせ水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用最大応答加速度を使用する。なお、耐震計算書においては、無次元化した設計震度として記載されることもある。</p> <p>(b) 設計用最大応答加速度は、配管系が設置されている位置を包絡する設計用最大応答加速度を適用する。また、異なる建物・構築物を渡る配管系については、配管系が設置されている位置を包絡する設計用最大応答加速度を適用する。ただし、設計用最大応答加速度の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。</p>	<p>設置（変更）許可における設計方針の差異による（女川2号では設計用最大応答加速度は1種類のみ）。</p> <p>表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>3. 地震応答解析モデル</p> <p>(1) 原子炉建屋</p> <p>原子炉建屋の地震応答解析モデルには、添付資料「VI-2-2-1 原子炉建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-1(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-1(2)に示す。</p> <p>(2) 制御建屋</p> <p>制御建屋の地震応答解析モデルには、添付書類「VI-2-2-3 制御建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-2(1)及び図3-2(2)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-2(3)に、誘発上下動を考慮する場合の地震応答解析モデルを図3-2(4)及び図3-2(5)に示す。</p>	<p>プラント固有条件の差異による（誘発上下動を考慮する建屋については誘発上下動を考慮する場合の地震応答解析モデルを記載）。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考



赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>4. 設計用最大応答加速度及び設計用床応答曲線</p> <p>本章では、施設ごとの各床面の設計用最大応答加速度及び静的震度並びに設計用床応答曲線を示す。また、添付書類「VI-2-1-1 耐震設計の基本方針」の「4. 設計用地震力」に従って算出した値以上となる</p>	<p>表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考												
		<p>ように作成した静的震度についても示す。</p> <p>4.1 弾性設計用地震動 Sd 建屋の各床面の弾性設計用地震動 S d に対する設計用最大応答加速度及び静的震度を表 4-1-1 及び表 4-1-2 に、各床面の減衰定数に応じた弾性設計用地震動 S d に対する設計用床応答曲線の図番を表 4-2-1 及び 4-2-2 に示す。また、建物・構築物等と表番号の関係を表 4-1 に示す。</p> <p>表 4-1 建物・構築物等と表番号の関係（弾性設計用地震動 S d）</p> <table border="1" data-bbox="1330 1198 1935 1369"><thead><tr><th>No.</th><th>建物・構築物等</th><th>設計用最大 応答加速度 及び静的震度</th><th>設計用床応答 曲線（S d）</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>原子炉建屋</td><td>表 4-1-1</td><td>表 4-2-1</td></tr><tr><td>2</td><td>制御建屋</td><td>表 4-1-2</td><td>表 4-2-2</td></tr></tbody></table>	No.	建物・構築物等	設計用最大 応答加速度 及び静的震度	設計用床応答 曲線（S d）	1	原子炉建屋	表 4-1-1	表 4-2-1	2	制御建屋	表 4-1-2	表 4-2-2	<p>表現の相違 設計の差異による （女川 2 号機では設計用最大応答加速度及び設計用床応答曲線は 1 種類のみであり、最大応答加速度及び床応答曲線（Sd）の記載は不要のため、表 4-1 と表 4-2 を結合）。</p> <p>記載箇所の相違 設計の差異による （女川 2 号機では設計用最大応答加速度は 1 種類のみであるため、最大応答加速度の記載は不要）。</p>
No.	建物・構築物等	設計用最大 応答加速度 及び静的震度	設計用床応答 曲線（S d）												
1	原子炉建屋	表 4-1-1	表 4-2-1												
2	制御建屋	表 4-1-2	表 4-2-2												

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>設計の差異による （女川2号機では設計用床応答曲線は1種類のみであるため、床応答曲線の記載は不要）。 設計用床応答曲線は表4.1に記載</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>4.2 基準地震動 S<sub>s</sub></p> <p>建屋の各床面の基準地震動 S<sub>s</sub> に対する設計用最大応答加速度を表 4-3-1 及び表 4-3-2 に、各床面の減衰定数に応じた弾性設計用地震動 S<sub>d</sub> に対する設計用床応答曲線の図番を表 4-4-1 及び 4-4-2 に示す。また、建物・構築物等と表番号の関係を表 4-2 に示す。</p>	<p>表現の相違</p> <p>設計の差異による</p> <p>（女川2号機では設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度は1種類のみであり、最大応答加速度及び床応答曲線（S<sub>s</sub>）の記載は不要のため、表 4-3 と表 4-4 を結合）。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機		備考		
		表 4.2 建物・構築物等における表番号との関連（基準地震動 Ss）		記載箇所の相違 設計の差異による （女川 2 号機では設計 用最大応答加速度は 1 種類のみであるため最 大応答加速度の記載は 不要）。		
		No.	建物・構築物等		設計用最大 応答加速度	設計用床応答 曲線（S <sub>s</sub> ）
		1	原子炉建屋		表 4-3-1	表 4-4-1
2	制御建屋	表 4-3-2	表 4-4-2			

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考



赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>設計の差異による （女川2号機では設計用床応答曲線は1種類のみであるため、床応答曲線の記載は不要）。</p> <p>設計用床応答曲線は表4.2に記載</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			対象となる建物・構築物（軽油タンク室、海水ポンプ室）について、余震荷重を算定するための地震動を本図書に追加予定。

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）  
黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機（2020/9/25版）	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考